

福井市足羽川におけるオオヨシキリの個体数について

林 哲 *

Number of individuals of Great Reed-Warbler in Asuwa River, Fukui City.

Tetsu HAYASHI

Fukui Prefectural Wildlife Protection Center, Wakisanga-cho Fukui-shi,
Fukui 910-21.

はじめに

動物の生活史を明らかにするためには、その種類がある地域にどれ位生息しているかを知ることが重要になる。

オオヨシキリは、本県では各地に生息しているが（福井県 1982），地域ごとの生息状況については十分に把握されていない。このため、筆者は、福井県におけるオオヨシキリの生息状況を把握するため、福井市足羽川で個体数調査を行い、記録した。

この記録が、今後、県内各地の、特に河川周辺の本種の比較資料になれば幸いである。

調査地

調査は、九頭竜川の一支流で、福井市を貫流する足羽川で行い、調査場所は、福井市勝見地籍の板垣橋から福井市篠尾町地籍の天神橋まで（距離 6.41 km）の足羽川河川敷を対象とした（調査面積 128.2 ha Fig.1）。

調査地の河川敷は、ヤナギ類の木本植生やヨシ原等草本植生が繁茂し、1部の地域に畑や採草地があり、多様な環境となっている（Fig.2）。

これらの地域の河原ではコチドリがみられ、湛水状の場所にはカツツブリが繁殖している。またヤナギ類の群落がある所では、ゴイサギやコサギの虜があり、渡りの時期（4-5月、9-10月）にはコムクドリの群れやチュウサギ等も観察され、福井市近郊の好適な野鳥観察地となっている。

調査時期と調査方法

調査は、1983年の5月4日から6月18日の間のうち、10日間実施し、調査時間は、午前7時30分から8時までの30分間行った。

調査方法は、自転車を使い、板垣橋から天神橋までの足羽川右岸堤防の道路に沿って、直接観察した個体と囁りを認めたものについて、そのつど、25,000分の1地形図に記録する方法で行った。

また、板垣橋から天神橋までの区間を、下記の橋ごとの6調査区に分けて、個体数を記録した（Fig.1）。

I (板垣橋-国道足羽橋), II (国道足羽橋-北陸自動車道), III (北陸自動車道-稻津橋),
IV (稻津橋-農道足羽橋), V (農道足羽橋-毘沙門橋), VI (毘沙門橋-天神橋)。

* 福井県鳥獣保護センター 福井市脇三ヶ町 66

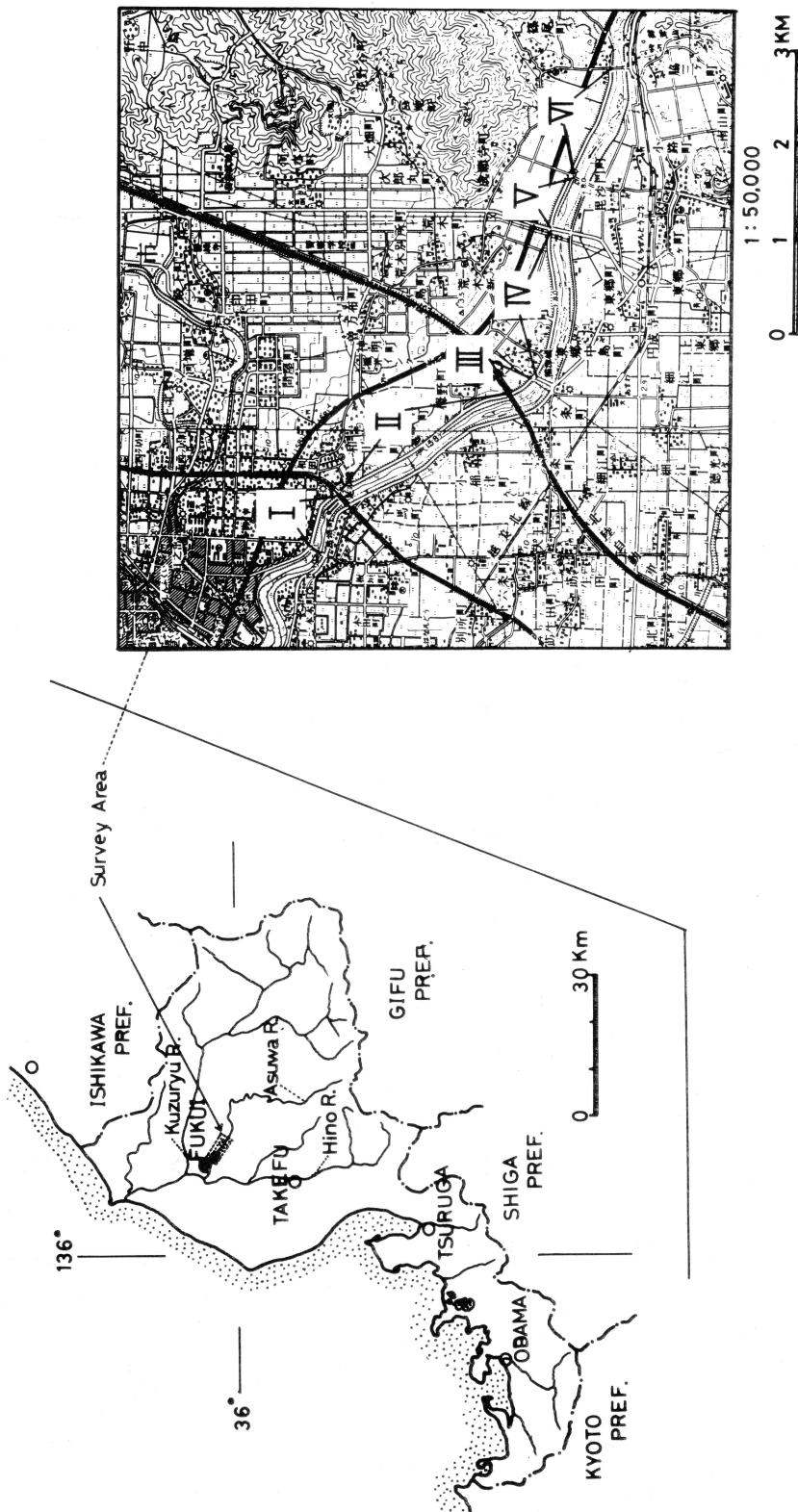
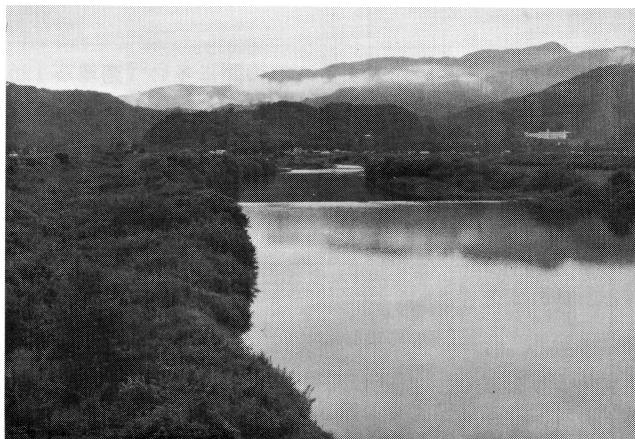


Fig. 1 Survey Area of Great Reed-Warbler
in Asuwa river, Fukui city.



(1) View of survey block II



(2) View of survey block VI

Fig.2 View of Survey Area in Asuwa River,
Fukui-City .

調査結果及び考察

1 オオヨシキリの渡来時期

オオヨシキリは春、日本に渡来し、秋には「インドシナ半島やマレー諸島」(小林 1981) 等の越冬地へ飛去する代表的な夏鳥の1種である。

我国では、河川や湿地のヨシ原で生息し、「九州から北海道まで広く分布」(日本野鳥の会 1978) している鳥であるが、福井県では、例年5月上旬に初認され(林 1982)，石川県や富山県でも5月上旬に初認されている(石川県 1977, 富山県 1980)。

一方、全国的には、九州地方では、4月下旬(宮崎県, 1975)に、東北地方(秋田, 青森)では、5月上～中旬(青森県 1972, 秋田県 1973)に、また、北海道(札幌)では、5月中～下旬(菊地ら 1957)に初認され、日本列島を南から北へ徐々に飛来していることがうかがわれる。

2 福井市足羽川のオオヨシキリの生息数

(1) 調査地の生息数

福井市足羽川の板垣橋から天神橋までの約 6.4 km の間に記録した個体数は、Table 1 および Table 2 に示した。

これらの結果から、調査地の全域の生息個体数の傾向について、期旬別にみると (Table 1)，5月上旬には、約20羽、中旬約30羽、下旬約50羽となり、6月上～中旬で約35羽の生息数を確認した (Fig.3)。

また、1 kmあたりの確認個体数については、5月上旬3.17羽、中旬4.68羽、下旬7.85羽、6月上～中旬5.54羽、観察したことになる。

このように、足羽川でのオオヨシキリの渡来状況及び生息個体数は、5月上旬から徐々に増え、5月下旬に最大羽数となって、6月には、その生息数がほぼ安定した状況になることを示唆している。

一方、雄の囀りは、渡来初期から番い形成するまでの間に多い (菊地ら 1957, 小笠原 1973) ことが分っているので、本調査の結果から、福井市足羽川におけるオオヨシキリの雄の渡来個体数は、5月下旬に多いと推察される。

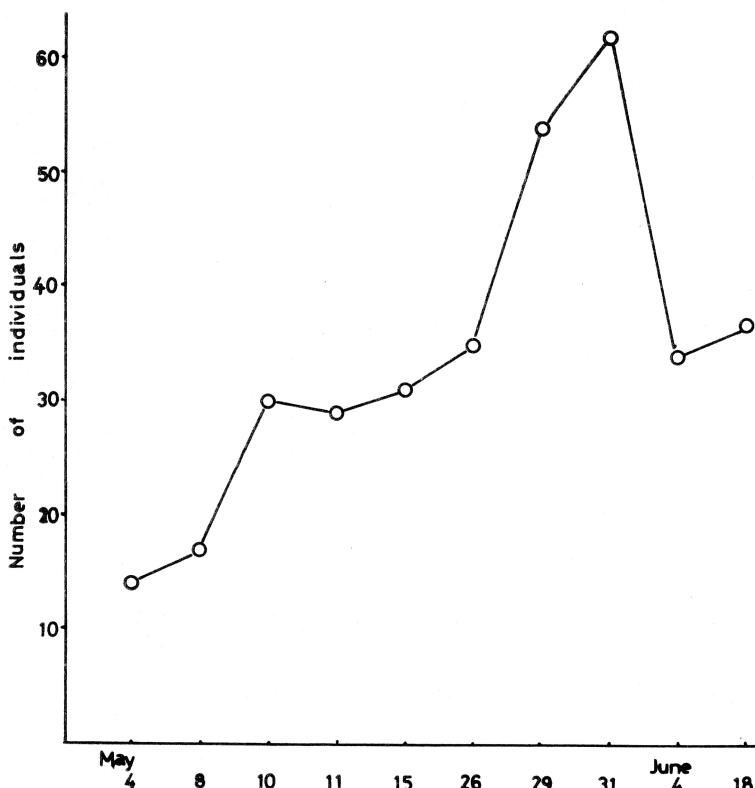


Fig. 3 . Number of individuals of Great Reed-Warbler in survey area (Asuwa river; Fukui city, 1983).

Table I Number of individuals of Great Reed-Warbler observed in Asuwa river, from Itagaki bridge to Tengin bridge, 1983.

Date surveyed		Number of individuals observed	Total	Average	Number of individuals per 1 Km.
May 1 - 10	4	14	61	20.3	3.17
	8	17			
	10	30			
May 11 - 20	II	29	60	30.0	4.68
	I5	31			
May 21 - 31	26	35	151	50.3	7.85
	29	54			
	31	62			
Jun. 1 - 20	4	34	71	35.5	5.54
	I8	37			

(2) 調査区における生息数

本調査地の河川を橋ごとの6区画に分けて、生息個体数を記録したが、その結果は、Table 2 に示した。

その結果、調査区ごとの1日（回）平均の確認個体数は、I区；0.6羽、II区；16羽、III区；1.8羽、IV区；7.9羽、V区；1.3羽、VI区；6.7羽となり、II、IV、VIの3区画で、89.2%の生息を認めることができた(Fig.4)。

また、これらの3調査区（II、IV、VI）での生息数は、I、III、Vの3調査区の1日平均確認個体数の合計（羽数、3.7羽）より、1.8～4.3倍の個体数を占めている。

一方、面積あたり（1ha）の生息個体数については、I区；0.05羽、II区；0.38羽、III区；0.3羽、IV区；0.25羽、V区；0.12羽、VI区；0.27羽となり、II、III、IV、VI区で生息個体数密度が高いことを示している。

したがって、これらの結果から、1日（回）あたりの確認生息個体数が多く、単位面積（1ha）あたりの生息密度の高い3調査区（II、IV、VI）が、6調査区の中でもオオヨシキリの生息状況としては、好適な地域と考えられた。

これは、この調査区の植生環境によっていると思われるが、これらの地域には、ヨシ等の草本植生やヤナギ類の木本植生がよく残されており、環境収容力が大きいためオオヨシキリの生息数が多くなっていると推測された。

Table 2 Number of individuals of Great Reed-Warbler observed at survey block in Asuwa River, Fukui City, 1983.

Date	Survey areas						Total	Number of individuals per I Km.
	I	II	III	IV	V	VI		
Survey block								
Distance (Km)	0.63	2.13	0.3	1.55	0.55	1.25	6.41	
Area(Ha)	12.6	42.6	6.0	31.0	11.0	25.0	128.2	
Percentage	9.8	33.2	4.7	24.2	8.6	19.5	100.0	
May 4	0	9	0	3	0	2	14	2.18
3	0	12	1	2	0	2	17	2.65
10	0	17	1	8	0	4	30	4.68
II	0	16	2	6	1	4	29	4.52
15	0	20	2	3	0	6	31	4.84
26	1	II	2	10	2	9	35	5.46
29	1	22	3	15	3	10	54	8.42
31	1	25	3	16	3	14	62	9.67
Jun. 4	0	15	2	7	2	8	34	5.30
18	3	13	2	9	2	8	37	5.77
Total	6	160	18	79	13	67	343	53.49
Average of number of individuals per day	0.6	16	1.8	7.9	1.3	6.7	34.3	5.35
Percentage	1.8	46.7	5.2	23.0	3.8	19.5	100.0	
Number of individuals per I ha.	0.05	0.38	0.3	0.25	0.12	0.27		

* Survey block I; Itagakibashi-Kokudō, Asuwabashi , II ;Kokudō, Asuwabashi - Hokuriku Kōsokudō, III ; Hokuriku Kōsokudō - Inazubashi, IV ; Inazubashi - Nōdō Asuwabashi , V ; Nōdō Asuwabashi - Bishamonbashi, VI ; Bishamonbashi - Tenjinbashi

福井市足羽川におけるオオヨシキリの個体数について

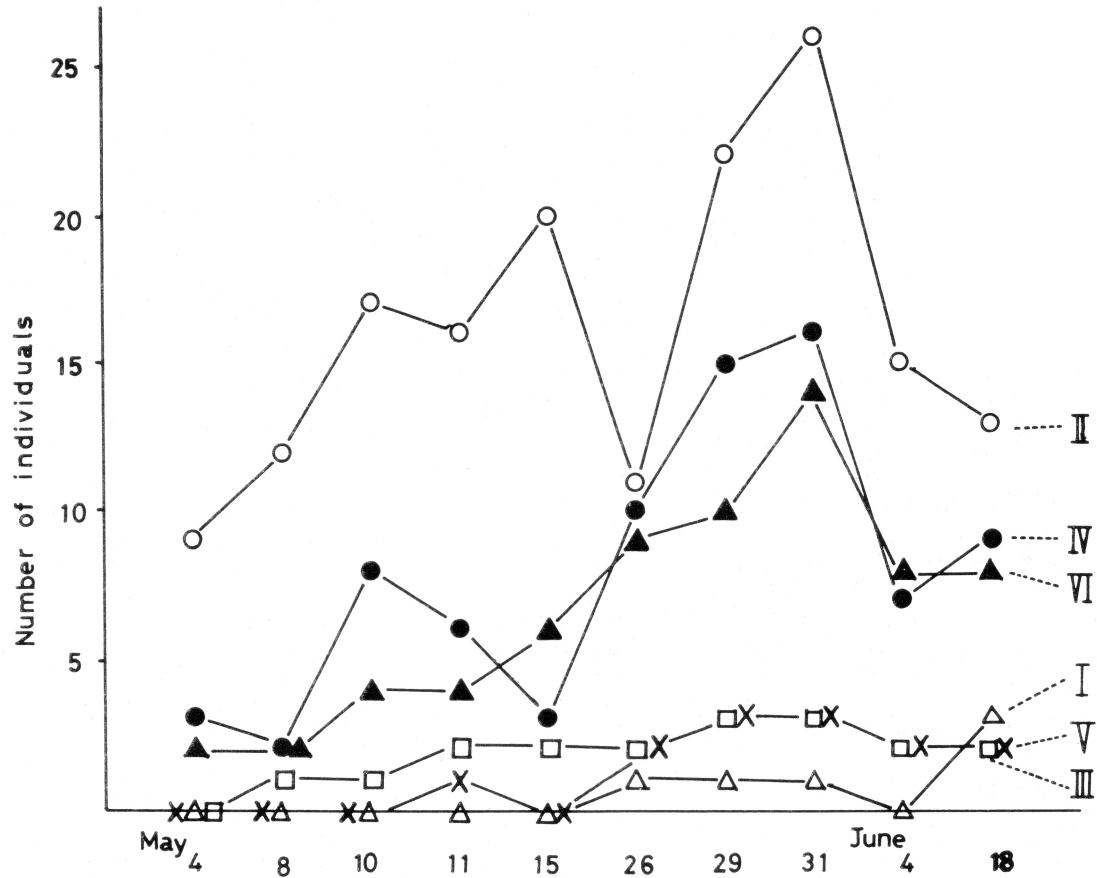


Fig.4 Number of individuals of Great Reed-Warbler in survey block of Asuwa river., 1983 ; May 4 - June 18 .

摘要

- (1) 福井市足羽川（板垣橋から天神橋までの約 6.4 km）の河川敷に生息するオオヨシキリを 1983 年 5 月～6 月のうち 10 日間、個体数調査を行った。
- (2) 調査地の個体数の傾向は、5 月上旬に 10～20 羽程度、中旬に 30 羽程度認められ、下旬には 50～60 羽の最大数となり、6 月上～中旬には 35 羽程度の生息数を確認した。
このことから、福井市足羽川におけるオオヨシキリは、5 月下旬に最も多く渡来する傾向があると示唆された。
- (3) 調査は橋ごとの 6 調査区に分けて記録したが、このうち、国道足羽橋から北陸自動車道のⅡ区（2.13 km）、稻津橋から農道足羽橋までのⅣ区（1.55 km）、毘沙門橋から天神橋までのⅥ区（1.25 km）の 3 調査区域でオオヨシキリの生息密度が高いことが認められた。
- (4) オオヨシキリの生息密度の高い 3 調査区は、植生環境がよく残され、環境収容力が大きいと推察された。

引用文献

- 秋田県（1973）：あきたの野鳥。
- 青森県（1972）：青森県の鳥獣。
- 福井県（1982）：福井県の鳥獣。
- 林 哲（1982）：福井県におけるヒタキ科鳥類の渡来・通過時期について。福井市立郷土自然科學博物館研究報告，29，43－48。
- 石川県（1977）：石川県の自然環境—鳥獣。
- 菊地昶史・坂上昭一・小西正一（1957）：オオヨシキリの生態。日本生態学会誌，7(4) 155－160。
- 小林桂助（1981）：原色日本鳥類図鑑。保育社。
- 宮崎県（1980）：宮崎の野鳥。
- 日本野鳥の会（1978）：鳥類繁殖地図調査。
- 小笠原聰（1973）：日本の野鳥—生態の記録。毎日新聞社。
- 富山県（1980）：富山県の鳥獣。